



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 56 号

R4.3.29

文責 中西 勉



「第 7 5 回 卒業証書授与式」 ～完結～



▲凛々しい姿で卒業式に臨む卒業生たち

新型コロナの感染拡大の影響で、6年1組の卒業式が延期となっていました。昨日、10日間延期されていた卒業式を無事に終わることができました。また、都合で昨日の卒業式に参加することができない2名については、25日(金)に体育館で2人だけの卒業式を行いました。こうして3度に渡る卒業式を経て、卒業生103名全員に卒業証書を渡すことができました。

今年度の卒業式は、本校の長い歴史の中でも、ひときわ深く刻まれるものになりました。卒業生103名の中学校でのさらなる活躍を心から願っています。



シリーズ「北京オリンピック」⑦ ～支え合うことの喜びと大切さ～

これまでお伝えしてきた“シリーズ「北京オリンピック」”は、今回(第7回)をもって終わりにしたいと思います。最終回は、カーリング女子で銀メダルに輝いたロコ・ソラーレに注目します。

カーリングは、1チーム4人の選手が、氷のリンクの上でストーンを投げ合って得点を競います。氷のリンクは、気温の変化やほんの小さなごみ一つにもストーンの動きに影響が出ます。また、どれも同じように見えるリンクも、一つ一つに氷の特性があり、この氷の特性をいかにうまくつかむかが大きな勝敗の分かれ目になります。この氷の特性を見極めるために、試合の前には練習でストーンを投げるのが許されているのですが、ロコ・ソラーレの中で、この重要な役割を担っていたのが、控え選手の石崎琴美選手でした。石崎選手は、北京オリンピックの試合に一度も出場することはありませんでした。しかし、自分の役割は、試合に出場する4人の選手が、最大限にその力を発揮できるようにすることだと考えて、夜遅くまでリンクでストーンを投げ続け、氷の特性を細かくチェックしたのです。この石崎選手の姿は、4人の選手の心に響き、試合でどんなにピンチに追い込まれても最後まで諦めないという精神的な強さを引き出しました。そして、4人の間には、いつしか「ことぶら」という合言葉が生まれました。「ことぶら」とは、「琴美ちゃんを手ぶらで日本に帰さない」、即ち、必ずメダルを取って、琴美ちゃんにかけてあげるという明確な目標でした。ロコ・ソラーレの5人は、誰一人、同じ職場で働いてはいません。しかし、カーリングの試合に臨むと、他のどんなチームよりも強い絆と結束力を発揮します。それは、「ことぶら」が象徴するように、互いを思いやる心を持ち、支え合っているからなのです。このロコ・ソラーレの選手の姿から、支え合うことの喜びと大切さを学びたいですね。



(※1年間、「ふお～ゆ～」を読んでくださり、本当にありがとうございました。令和4年度は、4月6日(水)、第57号から再開予定です。)